

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
2021 年 6 月 28 日	
愛 知 県 知 事 殿	
提出者	
住 所 愛知県北名古屋市九之坪半野 27	
氏 名 天野エンザイム株式会社 名古屋工	
工場長 岡田 茂稔	
（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）	
電話番号 0568-21-3883	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第 12 条第 9 項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名 称	天野エンザイム株式会社 名古屋工場
事業場の所在 地	愛知県北名古屋市九之坪半野 27
計画期 間	2021 年 4 月 1 日～ 2022 年 3 月 31 日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種 類	16 ：化学工業
②事業の規 模	製造品出荷額：388,000 万円
③従業員 数	185 名

	④産業廃棄物の一連の処理の工程	廃水処理工程から排出される産業廃棄物 ・汚泥⇒自ら中間処理（汚泥脱水・乾燥）した後 中間処理業者に委託し発酵，堆肥化 製造工程から排出される産業廃棄物 ・汚泥（珪藻土）⇒中間処理業者に委託して発酵，堆肥化 ・動植物残渣⇒中間処理業者に委託して発酵，堆肥化 ・廃プラスチック類⇒再生処理業者に委託し RPF 燃料として再資源化
--	-----------------	--

（日本工業規格 A 列 4 番）

（第 2 面）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 統括環境管理責任者 ↓ 名古屋工場 工場長（環境管理責任者，産業廃棄物処理責任者） ↓ ・名古屋工場 環境委員会事務局 ・産業廃棄物管理責任者 ・特別管理産業廃棄物管理責任者 ・名古屋工場 環境委員会 ・サイト責任者（産業廃棄物の分別，保管管理）			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
1 現状	【前年度（2020 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（廃水処理）	
	排出 量	21900 t	t
	（これまでに実施した取組） 汚泥脱水機の運転管理 汚泥乾燥機の運転管理 排水の COD 負荷を一部嫌気処理する事で、好機処理の負荷を減らし、好機処理で発生する汚泥量を減らす。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（廃水処理）	
	排出 量	21700 t	t

		(今後実施する予定の取組) 汚泥脱水機、乾燥機の機能維持により脱水汚泥含水率の低減を図る排水処理の嫌気処理設備を維持し、好機処理の負荷及び発生する汚泥を減らす。
産業廃棄物の分別に関する事項		
	①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥、動植物性残さ、廃プラスチック類はそれぞれ分別した後、指定の保管場所に保管している
	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 統括環境管理責任者 ↓ 名古屋工場 工場長（環境管理責任者，産業廃棄物処理責任者） ↓ ・名古屋工場 環境委員会事務局 ・産業廃棄物管理責任者 ・特別管理産業廃棄物管理責任者 ・名古屋工場 環境委員会 ・サイト責任者（産業廃棄物の分別，保管管理）			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
1	現状	【前年度（2020年度）実績】	
		産業廃棄物の種類	汚泥（珪藻土）
		排出量	631 t
			t

	(これまでに実施した取組) 圧搾機能付きフィルタープレスにより 水分を55%くらいに減量した		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（珪藻土）	
	排出量	625 t	t
	(今後実施する予定の取組) フィルタープレスの機能維持を行い水分の減量能力を維持する		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥、動植物性残さ、廃プラスチック類はそれぞれ分別した後、 指定の保管場所に保管している		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし		

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括環境管理責任者

↓

名古屋工場 工場長（環境管理責任者，産業廃棄物処理責任者）

↓

- ・名古屋工場 環境委員会事務局 ・産業廃棄物管理責任者
- ・特別管理産業廃棄物管理責任者

- ・名古屋工場 環境委員会 ・サイト責任者（産業廃棄物の分別，保管管理）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
1 現状	【前年度（2020年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	
	排出量	116 t	t
	（これまでに実施した取組） 使用量の削減に努める		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	
	排出量	115 t	t
	（今後実施する予定の取組） 使用量の削減に努める		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃酸は分別した後 指定の保管場所に保管している		
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 特になし		

1 現状	【前年度（2020年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	
	排出 量	116 t	t
	（これまでに実施した取組） 使用量の削減に努める		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	廃酸	
	排出 量	115 t	t
	（今後実施する予定の取組） 使用量の削減に努める		

【前年度（2020年度）実績】

産業廃棄物の種類	廃酸	
----------	----	--

排出量	116 t	t
-----	-------	---

排出量	116 t	t
-----	-------	---

排出量	116 t	t
-----	-------	---

(これまでに実施した取組)

使用量の削減に努める

②計画

産業廃棄物の種類	廃酸	
----------	----	--

産業廃棄物の種類	廃酸	
----------	----	--

排出量	115 t	t
-----	-------	---

排出量	115 t	t
-----	-------	---

排出量	115 t	t
-----	-------	---

(今後実施する予定の取組)

使用量の削減に努める

産業廃棄物の分別に関する事項

(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

指定の保管場所に保管している

②計画

特になし

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括環境管理責任者

↓

名古屋工場 工場長（環境管理責任者，産業廃棄物処理責任者）

↓

・名古屋工場 環境委員会事務局 ・産業廃棄物管理責任者
・特別管理産業廃棄物管理責任者

・名古屋工場 環境委員会 ・サイト責任者（産業廃棄物の分別，保管管理）

(管理体制図)

↓

・名古屋工場 環境委員会 ・サイト責任者（産業廃棄物の分別、保管管理）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項	
1 現状	【前年度（2020年度）実績】
	産業廃棄物の種類 廃プラスチック
	排出量 192 t t
	（これまでに実施した取組）
	・過剰な包装品の購入を避け包装仕様の変更可能な納入業者には簡易包装での納入を交渉した ・リサイクル容器の製品を購入し容器を納入業者に回収させる
②計画	【目標】
	産業廃棄物の種類 廃プラスチック
	排出量 190 t t
	（今後実施する予定の取組）
	詰め替え製品の購入を心掛ける
産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 汚泥、動植物性残さ、廃プラスチック類はそれぞれ分別した後、指定の保管場所に保管している
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 特になし

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

統括環境管理責任者

名古屋工場 工場長（環境管理責任者，産業廃棄物処理責任者）

↓

- ・名古屋工場 環境委員会事務局
- ・産業廃棄物管理責任者
- ・特別管理産業廃棄物管理責任者

- ・名古屋工場 環境委員会 ・サイト責任者（産業廃棄物の分別、保管管理）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

1 現状	【前年度（2020年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残さ	
	排出 量	4503 t	t
	（これまでに実施した取組） 絞り機により水分を65%くらいに減量した		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	動・植物性残さ	
	排出 量	4458 t	t
	（今後実施する予定の取組） 絞り機の機能維持を行い水分の減量能力を維持する		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥、動植物性残さ、廃プラスチック類はそれぞれ分別した後、 指定の保管場所に保管している
-----	---

	②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 特になし
--	-----	---------------------------------------

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（ - 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	- t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	- t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
1 現状	【前年度（ 2020 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（廃水处理）	
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	21900 t	t
	(これまでに実施した取組)		
	排水の COD 負荷を一部嫌気処理する事で、好機処理の負荷を減らし、好機処理で発生する汚泥量を減らす。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（廃水处理）	

		自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	0 t	t
		自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	21681 t	t
		(今後実施する予定の取組) 排水処理の嫌気処理設備を維持し、好機処理の負荷及び発生する汚泥を減らす。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（ - 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	-		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	t	
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	-		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	t	
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
1 現状	【前年度（ 2020 年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	汚泥（廃水処理）	汚泥（珪藻土）	廃酸
	全処理委託量	658 t	631 t	116 t
	優良認定処理業者への	0 t	0 t	0 t

			処理委託 量			
			再生利用業者への 処理委託 量	658 t	631 t	116 t
			認定熱回収業者への 処理委託 量	0 t	0	0
			認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者 への処理委託 量	0 t	0	0
		(これまでに実施した取組) 再生利用業者への処理委託を行う				

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ - 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	- t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	-	
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	- t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			

1	現 状	【前年度（2020年度）実績】			
		産業廃棄物の種類	廃プラスチック	動・植物残さ	
		全処理委託量	192 t	4503 t	
		優良認定処理業者への 処理委託量	192 t	0 t	
		再生利用業者への 処理委託量	192 t	4503 t	
		認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	
		認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0	0	0
		(これまでに実施した取組)			
		再生利用業者への処理委託を行う			

(第5面)

②計画		【目標】			
		産業廃棄物の種類	汚泥 (廃 水 処 理)	汚泥 (珪藻土)	廃酸
		全処理委託量	651 t	625	115 t
		優良認定処理業者への処 理委託量	0 t		t
		再生利用業者への 処理委託量	651 t	625	115 t
		認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	0	0 t

		認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託 量	0 t	0	0 t
		(今後実施する予定の取組) 委託処理業者の定期的な立ち入り調査を実施			
※事務処理欄					

(第5面)

②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック	動・植物性残 さ	
	全処理委託 量	190 t	4458 t	
	優良認定処理業者への処 理委託 量	190 t	0 t	
	再生利用業者への 処理委託 量	190 t	4458 t	
	認定熱回収業者への 処理委託 量	0 t	0 t	0 t

		認定熱回収業者以外の熱 回収を行う業者への処 理委託 量	0 t	0 t	0 t
		(今後実施する予定の取組) 委託処理業者の定期的な立ち入り調査を実施			
※事務処理欄					

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

